

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： 次世代人材育成センター

部局長名： 許 南浩

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	自己評価
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	自己評価
③-1 目標 ・岡山県、鳥取県、香川県の各県教育委員会と連携し、地域の科学教育を推進する。 ・理数分野に才能の持った高校生を選抜し、科学リテラシー・研究者倫理やグローバル化を目指したコミュニケーション能力を含む先進的な科学教育を実施する。 ・公開講座や講演会を通じて、岡山大学の科学研究成果を中高生や保護者、高校教員へ伝える。 ・大学入学前の高校生へ実施する科学才能教育の効果的な方法と、その成果を評価するための基準を検討する。	岡山県、鳥取県、香川県の県教委と連携し、先取り基盤コースでは58名、グローバル発展コースでは20名を対象として科学教育講座を開講し地域の科学教育を推進し、概ね目標を達成した。 グローバル化を目指した教育としてフランスにおける海外実習を計画していたが、安全面を考慮して中止した。しかしインターネット回線によるフランスとのネット講義の開催など、それを補う活動を実施した。 高校生対象の科学研究発表会「集まれ科学への挑戦者」を1月24日に開催した。 高校生、保護者、高校教諭を対象にした公開講座「素粒子の世界：ニュートリノとスーパーカミオカンデ」や「最先端医療で救われる命」を開催した。 受講者の成果発表会を公開で実施した。 科学技術振興機構の開催する全国受講者発表会や連絡協議会に参加し高校生対象の科学才能教育プログラムの紹介を行うと共に評価方法に関する意見交換を実施した。また、九州大学や東京理科大学を視察し、プログラムの改善を行った。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・新規の受講生を60名選抜し、先取り基盤コースを開講する。 ・平成26年度受講生から20名程度を発展コース生として選抜し、実際の科学研究活動を体験させながら実践的な科学教育を行う先取りグローバル発展コースを実施する。 ・受講生を対象として、海外実習を実施する。 ・岡山県教育委員会と協力し、高校生対象の科学発表会を1回以上開催する。 ・公開講座・講演会および高校生の科学研究発表会を実施する。 ・グローバルサイエンスキャンパス事業を実施している他大学や科学技術振興機構と連携し、受講生の発表会や連絡協議会に参加してプログラムの改善に繋げる。	
<b>④センター業務</b>	自己評価
④-1 目標 ・地域の科学教育拠点として、JSTグローバルサイエンスキャンパス事業「科学先取りグローバルキャンパス岡山」を実施し、将来グローバルに活躍できる人材を育てる。 ・大学入学前の生徒を主たる対象にした、先進科学教育手法を開発する。	地域の科学教育拠点として、科学先取りグローバルキャンパス岡山を開講した。岡山県だけでなく、鳥取県、香川県、広島県、兵庫県から、ほぼ目標人数の78名が参加し、40回以上の教育行事を実施した。 開発したプログラムの内容や教育方法に関しては実施報告書として冊子にまとめた。 高校生の研究成果を発表論文集としてまとめる準備が進んでいる。 フランスにおける海外研修を企画したが、安全面を考慮して今年度の現地訪問は中止した。しかし、ネイティブ教員による授業や留学生を交えての活動、インターネットを用いたフランスからの遠隔授業など、グローバルな人材を育成するプログラムを実施しており、その成果は得られている。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・近隣県から能力と意欲を持った生徒を80名選抜し、先進的な科学教育を年間20回以上実施する。 ・開発した教育手法と高校生が実際に行った研究成果を報告書として公表する。 ・グローバルな人材を育成するために、海外研修を企画実施する。	
<b>【総括記述欄】</b>	
概ね順調に予定の行事を行い、成果が得られている。海外実習に関しては、年度当初から準備を進めていたが、フランスにおいてテロが発生したため安全面を考慮して中止とした。平成28年度は、今後の状況を考慮して実施について判断をする予定である。しかし代替プログラムにより、グローバルな人材育成する目標は達成できている。	